

やさしく揺れる ふる里の灯り



「卯のほたる」
実行委員長
藤本 明美

「卯のほたる」の動機ですか

宇和の風物詩ほたるの乱舞がいつしかなくなり、さみしい歳月を感じてきました。しかし、最近では、減葉農法や浄化槽の充実など、水をきれいにする努力がなされ、今では、あちらの川、こちらの沢からほたるの群れ飛ぶ便りが届くようになり、そこはかとなく宇和の里の風情を感じます。

そこで私たちは、ほたるたちへの愛情を感じつつ、市民参加による手作り「あん灯」を文化の里「中町」周辺の家々の軒先などに灯し「卯のほたる」を表現することになりました。

「卯のほたる」と言う呼び名は、私たちの住む「卯之町^{うのまち}」の一字をとったもので、市民の皆さんから親しまれるようになってきました。

昨年も第3回「卯のほたる」が、8月15



藤本さん手作りのあん灯

日・16日の両日行なわれました。会場では「ええなあ、灯りは…」なにか心が落ちてく…」「こんな美しいイベントは初めて」などと、感嘆まじりの声が私たちの耳に届きました。「卯のほたる」の会場は、誰もが口数少なく静かです。でも、その表情はやさしく揺れる灯りに包まれてにこやかでした。時折懐かしい人との出会いでしゅうか。「何年ぶりか？」などと朗らかに挨拶を交わす声が聞こえてきます。和やかな光景が2日間続きました。事故もなく無事「卯のほたる」が終わりました。

灯りへの思いと願い

灯りをどう思うか、どう感じるかは人それぞれです。「どこか懐かしい」「ほっとして心が落ち着く」。また「大切な人のことを思う」人もあるでしょう。昔の旅人は、遠くに見える宿場町の明かりをやつと見つけ安堵したのではないのでしょうか。

私の灯りは、懐かしい灯りです。赤い提灯の長い長い列と故里の地蔵盆のこと。50年前の幼い頃の思い出。今でも赤い提灯の地蔵盆は続いているようですが、私の脳裏の片隅に残っていて、まれに思い出すのです。この思い出が「卯のほたる」を立ち上げたことに繋がっているように思います。

そして、ほたると聞く度…。失明した母が「お白いの匂いがする」と言い、ほたるを手に包み…「蚤狩り手籠にいれてにおいかむ」と句を読みました。今は永眠した母。私がほたるたちに人一倍執着と愛情を感じるのはいまこころにあるのでしょうか。

私たちは、「卯のほたる」に幾つかのねらいを掲げていますが、それは私たちの願いでもあります。

★開明学校をはじめ、伝統建築物のある中町のよさと魅力を伝えたい。

★宇和に帰省する人たちの楽しみとなるような「ふる里行事」になってほしい。



中町のまち並み

★将来を担う西予市の子供たちの思い出づくりにしてほしい。
などです。

♪嬉しいことがありました

中町には150軒ほどの民家があります。3年目の昨年は、殆どの家が「卯のほたる」に参加しました。あたりが暮れなずむ頃、中町の皆さんがこぞつて協力し、会場にこられた皆様を一緒に迎えました。また、お庭を気持ちよく提供してくださったお家もあります。5ヶ所の庭で竹

ぼたるが群れ飛びました。そして、私たちを励まし勇気づけてくれたのは、中町のおばちゃん達の言葉です。「藤本さん今年のほたるはいつぜ」「手伝うぜえ。言うてや」おばちゃん達の言葉は、本当に嬉しくスタッフ全員元気が出ました。有り難うございました。

ほたるの季節に娘が嫁ぎました

6月ほたるが飛ぶ頃、娘が西条市に嫁ぎました。私たち夫婦は、初めて先方のご両親を「卯のほたる」に招待しました。ご両親は、宇和町小学校の校庭をゆつくり散策してから明かりの灯った「卯のほたる」の会場を訪れました。お二人とも心ゆくまで、灯りの世界を満喫されたようです。

後日、ご両親からのお手紙に・・・

「卯のほたる」ろうそくの温もりと人の心の温かさが一つになって、私たちを迎えてくれました。感動しました。小学校の大きな木。人の気持ちをやさしく包んでくれました。こんな中で幸さんが育っていったのかと納得できました。さすが文化の里ですね・・・略

こども達の心を育んでくれた旧宇和町小学校と文化のかおり漂う「中町」に、感謝の気持ちでいっぱいです。



「卯のほたる」に魅せられて

中町に帰っておいでなさい

「卯のほたる」がふる里行事として定着することを願っています。課題も出てきました。運営費やスタッフの確保、文化財の安全などいろいろありますが、市民自主企画イベントの心意気を大切に、身の丈にあつた運営を心掛けます。市役所の皆さん、ご支援有難うございました。いろいろと助かりました。これからもよろしく願います。

今年も、8月15日・16日の夜は「卯のほたる」です。皆さん、ふる里に帰ったら灯りのイベント「卯のほたる」に是非おいでください。やさしく揺れるふる里の灯りが待っています。